

市民委員会資料①

2 所管事務の調査（報告）

（1）川崎市と益田市の文化・スポーツ等の交流に関する覚書の締結について

資料 1 川崎市と益田市の文化・スポーツ等の交流に関する覚書の締結について

資料 2 川崎市と益田市の文化・スポーツ等の交流に関する覚書（案）

参考資料 1 益田流マップ（益田市市政要覧より）

参考資料 2 新聞報道資料

市民・こども局

（平成25年6月17日）

川崎市と益田市の文化・スポーツ等の交流に関する覚書の締結について

1 覚書の締結までの経緯と目的

川崎市と益田市の交流は、平成 15 年の川崎市立商業高等学校創立 50 周年記念事業に益田市の郷土芸能である石見神楽の演舞が行われたことが契機となり始まりました。

その後、ふれあいサマーキャンプ、青少年のスポーツ交流、かわさき市民祭りへの益田市物産ブースの出店など、様々な交流が行われています。

そこで、これまでの経緯を踏まえ両市で覚書を交わし、引き続き文化・スポーツ等の交流を推進しようとするものです。

2 川崎市と益田市との交流事業

(1) 交流事業実績

① 文化交流事業

川崎市立商業高等学校創立 50 周年記念事業「石見神楽演舞」(平成 15 年)
かわさき市民祭り 石見神楽演舞 (平成 16 年・17 年、平成 22 年)

※平成 22 年は台風のため中止

② 青少年のスポーツ交流事業

小学生サッカー交流 (平成 20 年・21 年)

小学生ミニバスケットボール交流
(平成 21・22 年、平成 24 年)

小学生卓球交流 (平成 22 年)

小学生柔道交流 (平成 23 年)

中学生卓球交流 (平成 23 年)



③ その他、観光と物産の振興等事業

ふれあいサマーキャンプ交流 (平成 19 年から毎年)

かわさき市民祭り (益田市物産ブースの出店、平成 21 年から毎年)

多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎

(物産ブースの出店、賞品の提供、平成 22 年から毎年)

(2) 今後の交流

(1)の実績を踏まえ、青少年のスポーツ交流やふれあいサマーキャンプなど、現在行っている事業を中心に、引き続き交流事業を推進し、両市の相互理解と友好親善を深めていきます。

3 覚書の期間

覚書の有効期間は5年とします。

なお、両市のいずれかから終了の申し出がない場合、5年間の更新を行い、以後も同様とします。

4 締結式

日時：平成25年7月8日(月) 午前11時から

場所：川崎市役所

出席者：川崎市長、益田市長 ほか

益田市について

(1) 概要

益田市（ますだし）は、島根県の市。

浜田市と並び島根県西部、特に石西地域の中心都市である。

浜田市、大田市と共に石見三田（いわみさんだ）と呼ばれている。

人口：49,911人

面積：733.24 km²（平成25年3月末現在）

(2) 沿革

昭和27（1952）年に市制施行。

平成16（2004）年に益田市、美都町、匹見町が合併し、現在の益田市となる。

(3) 地理

島根県西部に位置し日本海に面する。市中心は高津川下流に広がる益田平野に発展している。市域の南部は中国山地の西部に当たり、1000m級の山々が連なる。

(4) 名産品・特産品

天然アユ、メロン、トマト、ブドウ、ユズ、ワサビ、鶏卵饅頭、鴨島はまぐり

(5) 歴史・文化

柿本人麿（生誕・終焉の地）、雪舟（益田氏に招かれ、円熟期と晩年を過ごす）

石見神楽（リズムの軽快さと衣装の豪華さで類を見ない郷土芸能）

遺跡・古墳（新槇原遺跡、スクモ塚古墳、小丸山古墳、鶺の鼻古墳群など）

（益田市ホームページ・市政要覧より）



(案)
川崎市と益田市の文化・スポーツ等の交流に関する覚書

川崎市と益田市は、両市の文化・スポーツ等の交流を推進するため、次の合意内容に関する覚書を締結する。

1 趣旨

川崎市及び益田市は、文化・スポーツ等の分野における交流を推進するため、次の事項について定めるものとする。

2 事業の内容

上記の目的を達成するため、両市は協力して次のことを行う。

- (1) 文化交流事業
- (2) 青少年のスポーツ交流事業
- (3) その他、観光と物産の振興等、両市の交流に資すること

3 有効期間

本覚書の有効期間は、締結の日から5年間とする。

両市のいずれかから、終了についての申し出がない場合は、5年間更新するものとし、以後も同様とする。

4 その他

この覚書に定めのない事項については、両市で誠意をもって協議する。

この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し両市の市長が署名の上、各1通を保有する。

平成25年 月 日

川崎市長

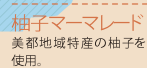
益田市長



ゆずっこ
美都地域で栽培された天然のゆずとハチミツを使用した「ゆずプリンク」。



苺ジャム
美都いちご(とよのか・さちのか・紅ほっぺ)を使用。

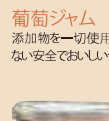


柚子マーマレード
美都地域特産の柚子を使用。



ブルーベリージャム
完全無農薬で育ったブルーベリーを100%使用。

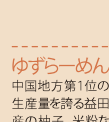
山口県
萩市



葡萄ジャム
添加物を一切使用していない安全でおいしいジャム。



食用ほおずきジャム
日本ではめずらしい食用ほおずきのジャム。



ゆずらーめん
中国地方第1位の生産量を誇る益田産の柚子、米粉などを使用。



鶏卵饅頭
創業以来の素朴な味と形。卵たっぷりの生地と甘さ控えめの白餡。



真砂のとうふ
石見産の大豆、日晩山の伏流水、ナチュラルな「にがり」を使用。



柿本人麩スポット

- 1 戸田柿神社
- 2 高津柿神社
- 3 県立万葉公園
- 4 鴨島跡展望地

雪舟スポット

- 1 雪舟の郷記念館
- 2 大善庵
- 3 萬福寺(庭園)
- 4 医光寺(庭園)

主なスポット

- 1 島根県芸術文化センター「クラフト」
- 2 益田市立歴史民俗資料館
- 3 美濃地屋敷
- 4 秦記念館

益田氏スポーツ

- 1 三宅御土居跡
- 2 染羽天石勝神社
- 3 医光寺(総門)
- 4 雪舟の郷記念館
- 5 七尾城跡

温泉

- 1 荒磯温泉 荒磯館
- 2 多田温泉 白龍館
- 3 大谷温泉 かじか荘
- 4 美都温泉 湯元館
- 5 匹見峡温泉 やすらぎの湯

M * A * P 益田流

癒しの温泉
海に面した温泉から、美しい緑に囲まれた温泉まで、益田には自慢の温泉があります。さまざまな効能があるお湯はもちろんなこと、益田ならではのおいしい食も堪能できます。



荒磯温泉 荒磯館
日本海に面した海岸に位置する温泉。活魚料理と絶景露天風呂付大浴場が好評。



多田温泉 白龍館
扇原の関門に近い山間に湧く温泉。川魚、山菜料理などの食事処としても人気。



大谷温泉 かじか荘
本湯川上流の谷間にあり、益田市で最も古い温泉。リュウマチ、神経痛などに効能あり。



美都温泉 湯元館
中国山地の深い森林に囲まれた温泉。つるとした、まろやかなお湯が特徴。



匹見峡温泉 やすらぎの湯
美人湯と評判のまろやかなお湯が人気。たくさん種類の風呂やレストランなどがある。

益田特産品 自慢の!

市民投票や審査員が厳選して決定した益田ブランド認定品。産地・地域・物語性、市場性・味わい・デザイン性・提案性・総合評価などの項目を審査されました。市民がオススメしたいごたりの産品です。

●益田ブランド認定品マーク

2011年（平成23年）8月5日 東京新聞 掲載記事

小学生柔道交流で汗

市内児童 島根・益田の9人と

島根県益田市の柔道「た」という益田市の小学場に通う小学生9人が、四年生、吉村宗馬君、四日、川崎市多摩区（こ）は「高学年がいつ多摩スポーツセンター」ばいて疲れた。川崎を訪れ、市内の道場にの子たちはみんな強か通う小学生十二人と共「た」。川崎市立金程に稲古で汗を流した。小六年の水田実由さんスポーツを通して両市（こ）は「どんな技ややが交流を深める青少年（こ）は「どんな技ややスポーツ都市間交流推からず、初めての相進事業の一端。五日は手と稲古するのは勉強市立柿生中学校（麻生）になった」と話してい（区）で練習試合を行（平木友見子）う。

両市の交流は、二〇〇二年に川崎市立商業高校（幸区）で益田市の石見神楽が演習されたのを機に始まり、〇八年からスポーツ交流がスタート。さまざまなスポーツをする小学生が、両市を行き来している。

この日の小学生たちは、乱取り稲古などに取り組んだ。警察官になりたくて柔道を始め



乱取り稲古で汗を流す子どもたち＝多摩区のも摩スポーツセンターで

2012年（平成24年） 8月20日 神奈川新聞 掲載記事

川崎と島根・益田の小学生 ミニバスケ通じ交流

川崎市と島根県益田市の小学生がミニバスケを通じて友好を深めた交流会＝川崎市中原区

川崎市と島根県益田市の小学生がミニバスケを通じて友好を深めた交流会＝川崎市中原区

この日は、益田市から地元チームで活動する、6年生の男女14人が、川崎市からは市北部選抜と南部選抜の6年生男女48人が参加。男女別に計4試合が行われ、選手がシュートを打つたびに保護者らから大きな歓声が上がると、熱戦が繰り広げられた。

試合後には、川崎を本拠地とするバスケットボール女子Wリーグ「富士通レッドウェーブ」の石川麻衣選手と町田瑠唯選手が登場。フリースロー大会や記念撮影などの交流会も開かれた。

益田市の5年生、岩崎彩羅さん（10）は「川崎の様に離れた場所の小学生と一緒にバスケをする機会はあまりないので、とても楽しかった。富士通の選手も間近に見られて良かった」と笑顔。川崎市南部選抜で市立宮前小6年の小野崎卓輝君（11）は「今日一緒にプレーした益田市の小学生と、またいつか一緒にできればいいなと思います」と話していた。（山下 徹）

事業の一端で、今年で5回目。毎年夏休みのこの時期、両市の子たちも互いに行き来し、サッカーやミニバスケなどのスポーツを通じて交流を行っている。

川崎市と島根県益田市の小学生がミニバスケを通じて友好を深めた交流会＝川崎市中原区

